

成田空港での自動物流道路の実現に向けた実証実験を実施します ～国土交通省「令和8年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験」に採択されました～

成田空港「第二の開港」にあわせ、空港内や隣接する公道、周辺物流地域を結ぶ新たな物流システムとして、自動物流道路の構築を目指すため、空港周辺において実証実験に取り組めます。

1 実証実験の背景・目的

国土交通省では、クリーンエネルギーを活用した無人・自動搬送システムで貨物を輸送する「自動物流道路（オートフロー・ロード）」の実現に向けた取組を進めています。

成田空港においても、令和7年6月に策定した「SORATO NRT エアポートシティ構想」において、物流分野の効率化・高度化に向け、空港内貨物施設を起点とする自動物流道路の整備を掲げています。

昨年度は、成田空港周辺をフィールドとした実証実験が国土交通省に採択され、自動運転技術を活用した搬送機器の走行性能等の検証を実施しました。

その成果を踏まえ、今年度は荷役作業や複数台の搬送機器による自動走行など、実際の運用を想定した技術検証を実施します。

2 実験概要

実施場所：成田国際空港内の施設（詳細は決定後、お知らせいたします。）

検証期間：令和8年度内（詳細は決定後、お知らせいたします。）

実験実施者：千葉県、成田国際空港株式会社、

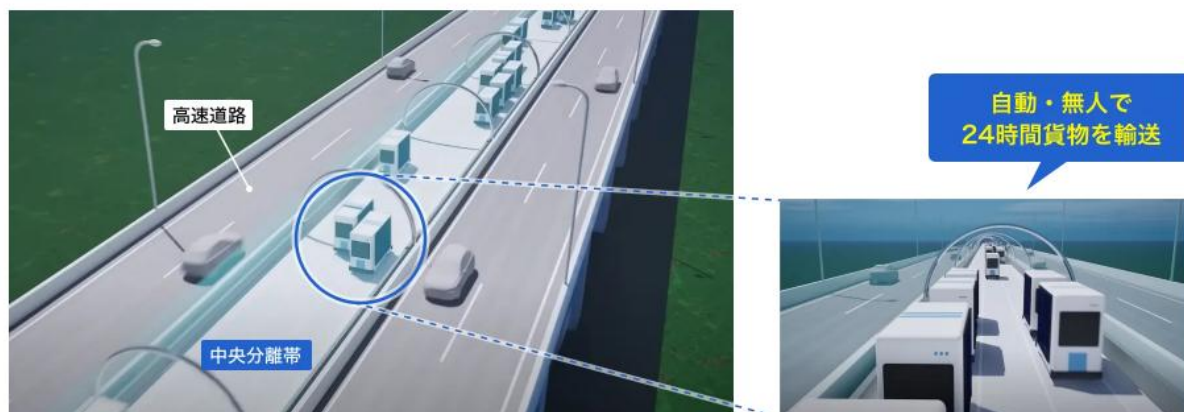
株式会社大林組、Cuebus株式会社、株式会社NTTデータ

検証内容：複数台の搬送機器による自動走行

<参考>

・自動物流道路とは

道路空間に物流専用のスペースを設け、クリーンエネルギーを電源とする無人化・自動化された輸送手段によって貨物を運ぶ新たな物流システムです。物流危機やカーボンニュートラルの実現といった社会の変化に対応することを目的としています。



(出典：国土交通省 https://www.mlit.go.jp/road/autoflow_road/)

・成田空港における自動物流道路の位置付け

『SORATO NRT エアポートシティ構想』(令和7年6月公表の「成田空港『エアポートシティ』構想から名称変更」)において、空港内貨物施設を起点とする自動物流道路の整備を位置付けています。

テクノロジーと制度の両面から、物流における課題を解決し、国際競争力を強化

物流分野の効率化・高度化

ドライバー不足や労働時間規制に対応し、物流の最適化や物流モードのシームレスな連結、カーボンニュートラルを目指すために、成田空港では空港内貨物施設を起点とする自動物流道路(オートフローロード)を整備。24時間稼働による安定輸送や物流モードのシームレスな連結により、物流の全体最適化と省人化、環境負荷の低減を同時に実現する。

物流インフラの刷新によって、成田発の「持続可能で、賢く、安全な、全く新しいカーボンニュートラル型の物流革新プラットフォーム」を構築する。

成田空港の国際的な物流・産業ハブとしての機能強化に向けた規制緩和・制度導入

我が国の貿易拡大に向けて、国際空港の機能を生かした物流・産業拠点形成と迅速な物流チェーンの構築を目指し、輸送速度・品質管理が重要な貨物(医療用原料・生鮮農産物・精密部品等)等への対応力を強化するとともに、必要に応じた規制緩和・制度導入の検討を行う。

出典：国土交通省 HP(自動物流道路)

(出典：千葉県 HP <https://www.pref.chiba.lg.jp/kuushin/narita/kousoukouhyou.html>)

・令和8年度自動物流道路の社会実装に向けた実証実験について

国土交通省道路局では、自動物流道路の社会実装に向け、国土技術政策総合研究所の試験走路や成田国際空港内の施設を活用した実証実験を引き続き実施。千葉県を代表とする実験実施者においては、成田国際空港内の施設を利用し、自動物流道路の実現に必要な複数台の搬送機器による自動走行に関する実証実験を行います。